

演題名

SARS-COV2mRNA 脂質ナノ粒子製剤接種後症候群(PVS)の実態と臨床的特徴

～全国 14 施設レジストリによる多症状・長期化の検討～

抄録

【目的】

SARS-COV2mRNA 脂質ナノ粒子製剤(以下、mRNA-LNP と略)接種後に遷延する多様な症状(PVS)を呈する症例について、全国多施設による患者レジストリを用いて症状プロファイル、発症時期、重症度、回復状況を明らかにし、診断・治療戦略への示唆を得ることを目的とした。

【方法】

2020 年 12 月～2023 年 8 月末に、mRNA-LNP 接種後の遷延性副反応であることが「臨床的に確実」と診断された 179 例を対象に、前向き観察レジストリ研究を実施。症状は MedDRA の SOC/PT 分類に基づき分類し、有害事象の頻度、重症度(CTCAE 準拠)、発症日・回復日などを記録、解析した。

【結果】

有害事象は計 493 件。69.4%が接種後 90 日以内に発症、12.4%は 360 日以上経過後に発症。頻度の高い分類は「一般・全身障害」(29.2%)、「神経系障害」(22.3%)、「筋骨格系障害」(10.1%)であり、倦怠感、ブレインフォグ、関節痛、歩行障害、感覚鈍麻などが多く記録された。最大で 29 の SOC 系統を呈した例も認められた。完全回復は 27%、寛解 38%、未回復 29%、死亡 1%。3SOC 系統すべてに該当する PVS タイプ 1 では未回復率が 63%と最も高かった。回復までの中央値は 150～300 日と長期化傾向を示した。

【考察】

本研究は、mRNA-LNP 接種後における PVS の臨床的多様性と遷延性の実態が明らかになった。特に神経系・筋骨格系を含む複合症例において長期にわたる未回復が顕著であった。また一部症例は ME/CFS との診断的オーバーラップも示唆された。

【結論】

mRNA-LNP 接種後の PVS は、全身に多彩かつ持続性のある症状をもたらし、長期的視点での診療体制の確立と診断基準の整備が急務である。社会的認知と医療支援体制の強化が求められる。